第4号
初等教育学科だより
色えんぴつ
就実大学人文科学部初等教育学科
〒703-8516 岡山市西川原1-6-1
TEL.086-271-8111(代表)
2009年2月1日発行
http://www.shujitsu.ac.jp/web/department/cultural/elementary/index.html E-mail:shotou@shujitsu.ac.jp

実習に行ってきました!

2年生53名が、保育所実習(20日間)と施設実習(10日間)を無事終えました。

また1年生81名、2年生1名は教育保育インターンシップで、小学校・幼稚園・保育園の現場を経験しました。

保育所実習

初等教育学科2年　加藤　秀行

保育所実習は私達にとって初めての実習でした。今までにはなかった、将来につながる実際の現場での学習ということで、始まる前からとても緊張感がありました。まず実習が始まる2週間ほど前に事前訪問をして、実習の概要や日程、保育所の見学などをさせていただきました。そしていよいよ8月28日、実習が始まりました。保育所実習は基本的に自宅近くの保育所に1～2人の実習生で臨みます。私も毎日自宅から自転車で保育所まで通いました。

今回私が担当したのは2歳児と5歳児のクラスでした。2つのクラスを体験することで、授業で学んだような年齢やクラスによる差をはっきりと知ることができ、とても勉強になりました。私は今まで子どもたちと直接関わる機会があまりなく、子どもたちと自然に接することができるのか、子どもたちは心を開いてくれるのかなど、いろいろな不安がありましたが、子どもたちは、すぐに「先生！先生！」と集まってきてくれ、その不安は初日から払拭することができました。そして20日間、とても充実した実習を送ることができました。

実習では、日誌や指導案の作成など初めは慣れないことも多く、大変なこともありました。しかし、振り返ってみるとあっというまの20日間でした。実習で学ぶことは数え切れないほどあると思います。今回の実習で得たものをこれから保育士になるために、存分に生かしていこうと思います。

施設実習

初等教育学科2年　奥野　沙也佳

私は知的障害児施設で実習をしました。少人数で臨んだ保育所実習と違い、7人での実習ということから、あまり不安はありませんでした。しかし、障害者の方と関わりをもったことがなかった私にとっては、初めての経験ばかりで、初日は利用者さんと何を話してよいかすらわからない状態でした。このままでは実習の意味がないと深く反省し、次の日から課題を決めて取り組むようにしました。そうすると、利用者さんの今まで知らなかった顔を見ることができるようになりました。正直に言えば、初日の利用者さんに対する言葉は、何を話せばよいかと考えてから発する「作り物」の言葉でした。しかし、利用者さんをもっと知りたいと思うようになると自然に会話もでき、私自身柔らかい表情になることができたと思います。もちろん反省点も多く、毎日新しい課題がでてきました。実習後半になると何もできなかった初日がもったいなかったと思うぐらいに、何かを学んで帰ろうと思う気持ちが大きくなっていました。

また、実習中、精神的にも体力的にも辛いときはありましたが、実習仲間に励まされたり、利用者さんの笑顔や、「奥野さん、おはよう」と朝一番にかけてくれる言葉で元気がでました。10日間の施設実習で、机上では決して学ぶことのできない「人との関わり」を勉強できたように思います。また自分の将来を真剣に考えるようにもなりました。施設実習では、積極的であるほど多くのことを得ることができると実感しました。実習で得た知識や経験を忘れず、また、後輩達にも伝えていきたいと思います。

教育保育インターンシップ

初等教育学科1年　日髙　聡美

私は、9月8日から12日の5日間、小学校へインターンシップに行きました。いつもは大学で授業を受ける側の自分が、小学校で指導をするという初の体験に、最初は大きな不安を抱いていました。実際、小学校では、私は「先生」になりきれず「児童」に戻った感覚となり、結局「先生」と「児童」の中間的な立場で児童に接してしまいました。そのため、うまく児童を叱ることができないなど、問題もたくさんでてきました。しかし、先生方や児童の支えのおかげで、次第に指導もできるようになり、とても充実した時間を過ごすことができました。普段の大学での理論的な勉強を生かして、実践的な場に取り組むことができ、とてもよい経験になりました。また、自分の将来についてしっかり考えることができました。

色えんぴつ

就実大学初等教育学会 活動報告

このコーナーでは、就実大学初等教育学会の事業である講演会、実技グループ、研究グループの活動を報告します。

本城武則先生の講演を聞いて

初等教育学科2年　高野　昌幸

2008年7月5日（土）、就実大学初等教育学会学術講演会が開催されました。講師に本城式英会話スクール校長並びに武蔵野学院大学客員教授の本城武則先生をお招きし、「いま、教師・保育士に求められる英語力―子どもを引きつけるためには何が必要か―」という演題で講演していただきました。

本城先生はまず、「日本人はあいさつをしなくなった」と話されました。そして、目と目が合っても、「こんにちは」「おはようございます」といったあいさつができておらず、「日本語で会話もできない人が、英語で会話できるはずがない」と指摘されました。

講演会は、英会話に関する話だけでなくさまざまな内容に触れられました。26歳の時に中学1年生レベルの英語力だった先生が短期間で英会話を修得されたこと、子どもにとって勉強は“Pain”であるが、それを“Pleasure”に変えることが教師の仕事であること、子どもの興味を引くには授業中にゲームを使うといった“Surprise”が必要であることなど、非常に興味がわくお話ばかりでした。また自分の英語の発音を携帯電話で録音して聞いて、発音の上達を自己評価するという斬新なアイディアには驚きました。

多くのお話の中で私が最も印象に残ったことは「叶」という字の成り立ちについてです。この字は「口」に「十」と書きます。つまり叶えたいことを十回、口にすれば叶うと先生はおっしゃっていました。この漢字の成り立ちは本城先生の解釈であり、辞書にある本来の成り立ちとは異なっていますが、思わず「なるほど」と納得してしまいました。

外国語は難しくてなかなか好きになれないという人が多いと思います。しかし、今回の本城先生の講演で少しでも英語が好きになれた人が増えたのではないかと思います。英語の魅力に気付くことができた貴重な講演会でした。

実技グループ

2008年11月1日（土）に高梁市有漢生涯学習センターで開催された「子どもフェスタinたかはし」に出演するため、夏休み前に初等教育学会で有志を募り、実技グループを結成。人形劇、パネルシアター、オペレッタ、手遊びのグループに分かれて演目を準備し、本番当日は2年生35人、1年生23人の合計58人もの学生が参加しました。

まず、「はじまるよ！」の手遊びで会場の子どもたちと一緒に遊んで、本番開始。この後も演目の合間にはいつも手遊びグループが活躍です。

次に児童文化部による「カラフルタッチ」とペープサート「くれよんのくろくん」。カラフルタッチで「何に変身してるかな？」と尋ねると大きな声で答えてくれている子やステージをずっと見ている子など、みんなお姉さんやお兄さんに夢中でした。「くれよんのくろくん」は、かわいいくれよんたちが繰り広げる心あたたまるお話でした。

そのあと人形劇「ご・は・ん」で前半が終了。人形劇では、実際に人形を作ったり、小道具を作ったりと準備が大変そうでしたが、表情が作れない人形の分、みんな声の出し方で役になりきっていました。劇を通して歯磨きの大切さもバイキンが教えてくれました。

後半は会場のみんなと「ももっち体操」を歌って踊りました。

そのあとはパネルシアター「森のカレー」。動物たちがカレー作りに挑戦するお話でした。「パクパクペロリ、おいしくなーれ！」と呪文を唱える場面では、子どもたちも大きな声で参加してくれました。

最後はオペレッタ「3びきのこぶた」！ 背景や大道具など用意が大変だったのですが、この日のために空いている時間や放課後に集まり、準備・練習を頑張ってきました。歌や踊りもあり、みんなで完成させた作品となりました。

終わった後は、廊下でお見送り。子ども達に手を振っていると自然と笑顔になってしまいました。たくさんの子どもや保護者の方が参加してくださった「子どもフェスタ」。私たちにとって、とても貴重な体験になりました。

（報告：初等教育学科2年 尾藤恵理子）

研究グループ

2008年12月6日（土）に香川県の高松大学・高松短期大学で行われた第49回中・四国保育学生研究大会に、初等教育学科の学生11名（2年生9名、1年生2名）が参加しました。大会には中国・四国地方の保育士養成校43校が集まり、参加者が総勢1400人を超す大規模なものでした。

私たちの研究のタイトルは「テレビ絵本に対する保護者の意識調査」でした。現在テレビやビデオなどさまざまなメディアに囲まれて生活している子どもたちにとって、「アニメーションやヒーローの特撮ものなど映像作品をもとにした絵本」（本研究では「テレビ絵本」と定義）は、一般絵本に比べてより身近で魅力的な絵本ではないかと考えました。しかし、実際に絵本を買い与える立場である保護者の意識とはズレがあるのではないかとも考え、「テレビ絵本」について保護者がいったいどのような考えを持っているのかを確かめるべく、アンケート調査を行ったのです。

発表の準備は夏休みからはじめました。今回は研究手法としてアンケート調査を用いたため、やはり一番苦労した点はアンケートの作成作業でした。私たちの立てた仮説を検証できるように質問項目を作成しなければならず、とても困難なものでした。

そして9月の上旬、保育園・幼稚園に通う園児の保護者約1000人に対してアンケートを実施しました。アンケートを集計した結果、私たちの予想を超えた意見やデータがたくさん出てきました。

データを分析・考察した結果、「テレビ絵本」は教育のためよりも、子どもの楽しみの一つとして利用されていること、どれだけ親が「テレビ絵本」に対してマイナスイメージを持っていても、子どもが欲しがるために買い与えていることの2点を結論として導き出しました。

この考察結果や得られたデータをもとに、発表要旨、パワーポイント、口頭発表原稿などの作成にとりかかりました。この作業も毎日夜遅くまで行いました。

寒空のもと行われた大会では、保育士を目指すたくさんの学生が保育について研究したものを発表し合い、発表者からは「保育士になる！」という強い気持ちを感じました。質疑応答でもさまざまな質問が飛び交うなど、それぞれの研究成果を共有することができました。

私たち就実大学の発表に対する講評では「テレビ絵本に関するデータとしては非常に貴重なものである」と言われ、私たちの研究は有意義なものであったことを改めて感じました。

（報告：初等教育学科2年 池田康輔、加藤秀行）

実技グループと研究グループは10月25日（土）26日（日）のなでしこ祭同時開催のオープンキャンパス「就大初等☆ちゃいるどぱーく」にも参加し、成果を発表しました。

第1回 初等教育学科 大運動会開催!!

去る2008年6月7日（土）、本学体育館で初等教育学科1・2年生がクラス対抗の運動会を行ないました。

今回の運動会は、新入生歓迎の意味があり、2年生の新歓実行委員が企画・運営をしました。

授業クラスをもとにした1・2年生の合同チームに分かれて、各チームカラーを身にまとい、ドッチボールや長縄・リレーなどで大いに盛り上がりました。

必死に頑張るチームのメンバーに自然と応援の声もあがり、学年の枠を越えて1・2年生の交流も深まりました。

勝手に銘打った第1回だったので、第2回があるかどうかは不明ですが、今後の初等教育学科の動向に注目!

（報告：初等教育学科2年 山田高良）

コラム 生きるということ

初等教育学科2年 田中　徹哉

みなさん、肉を食べたことがありますか？ 牛肉、豚肉、鶏肉、魚肉、etc……。いろんな肉を簡単に手に入れることができるようになった現在、肉を食べたことのない人はほとんどいないでしょう。それでは、その肉が食卓に届くまでのプロセスは知っていますか？

先日、**『いのちの食べかた』**という映画のDVDを観ました。「食料」を生み出している現場の映像には、1つのいのちであるはずの家畜や魚が機械で管理される中で、無機質に育てられ、食料としての肉となるまでが映し出されており、とても衝撃的でした。それは、とても生々しいものでしたが、私たちが普段口にしている肉とはこういう風に作られているのだということを知りました。ついさっきまで、生きていた動物が殺されるところを見ると、動物たちの悲鳴が聞こえるような気がします。いのちを食料として無機質に大量生産する場面から、人間らしい食の生産方法とはなにかを考えさせられました。

私たちは、肉という「もの」を食べているのではなく、生きているものの「いのち」を食べているのです。生きることは植物や動物のいのちをバトンのようにつないでいくことだと思います。その現実としっかり向き合い、私たち自身のいのちを大事にしていきたいと思います。

【参考】
ニコラウス・ゲイハルター監督『いのちの食べかたOUR DAILY BREAD』2005年
森達也『いのちの食べかた』理論社、2004年

就実教育実践研究センター主催

就実教育実践セミナー講演会 マリアン・マニング先生の講演を聞いて

初等教育学科1年 平岩　由衣

2008年11月28日（金）に開催されたマリアン・マニング先生の「読解力を育てる『ビッグブック』の理論と実践」は、初等1年生にとっては初めての外国の先生を招いた講演でした。マニング先生はとてもチャーミングで、講演はとても興味深く楽しいものでした。

講演では自分たちが幼児の気持ちになってみたり、教育者の気持ちになってみたりといろんな視点からビックブックの理論を体感しました。

マニング先生が教えてくださったことは、子どもたちだけでなく、教育者にとっても楽しく絵本を読むことができる活動なので、どんどん実践していこうと思いました。

教育研究実践センター講演会

■ 2009年2月17日（火）14:00からE402にて開催

川崎医療福祉大学教授の佐々木正美先生を講師にお迎えし、発達障害児者の特性と支援について基本的なことをうかがいます。一般参加者も当日参加できます。

初等NEWS2009

■ 学生の活躍

● 「大学コンソーシアム岡山」ロゴマーク・デザインコンテスト参加

2008年11月15日（土）岡山国際交流センターで「大学コンソーシアム岡山」ロゴマーク・デザインコンテストが行われました。応募した初等教育学科1年生9名のうち5名がプレゼンテーションに参加し、黒岩由加子さんの作品が優秀賞を獲得しました。詳しくは、HPをご覧ください。

■ 就職対策

● 初等教育ピアノグレード試験

年に2回開催し、ピアノの演奏技術を磨いています！
次回は2009年2月に実施します。

● 就職対策一般教養模擬試験

2008年10月18日（土）実施。1年生・2年生の多くが受験し、就職試験に向けての意欲を新たにしました。
次回は2009年5月に実施予定です。

● 就職対策講演会

2009年2月17日（火）10:30からE402にて開催

教員就職率全国NO.1大学である兵庫教育大学大学院教授の渡邉満先生を講師にお迎えし、就職試験に合格するための学生生活の過ごし方、試験への取り組み方などをうかがいます。（1・2年生対象）

● 教員採用試験対策特別講座

2009年4月から申込みを行い、5月下旬より学内で講座を開始します。（新3年生対象）

編集後記

「初等教育学科だより 色えんぴつ」第4号をお届けします。

初等教育学科も開設から2年目を迎え、学内でのさまざまな行事に加えて、学外へ出かけていく機会も増えてきました。来年度からはいよいよ3年生のゼミナールも始まります。それぞれが自分の「色」を見つけて、初等教育学科全員で素敵な未来予想図を描きたいものです。（真）

学生編集委員　1年生　布川千都、日髙聡美、平岩由衣
2年生　池田康輔、奥野沙也佳、尾藤恵理子、加藤秀行、高野昌幸、田中徹哉、山田高良

教員編集委員　古山典子、櫛田真由美